IsaPD 療法について

この治療法は、多発性骨髄腫に対する治療法です。この治療法ではイサツキシマブ、ポマリドミド、デキサメタゾンの3種類の治療薬が使用されています。

1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間
生理食塩液	点滴ラインの確保	―
イサツキシマブ	抗がん剤	※1
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	5分

※1 イサツキシマブの投与時間は投与量によって異なります。

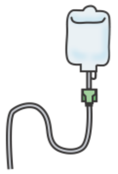
※2 イサツキシマブ開始30分前に抗ヒスタミン剤(ジフェンヒドラミン錠)、H_2ブロッカー(ファモチジン錠)、解熱鎮痛剤(アセトアミノフェン錠)、副腎皮質ホルモン(デキサメタゾン錠)を内服します。

2. スケジュール

イサツキシマブは28日サイクルで抗がん剤を投与していきます。1サイクル目と2サイクル目以降で投与日、休薬期間が異なります。内服薬のポマリドミドは1日目からスタートし、21日目まで内服します。その後の7日間は休薬期間になります。デキサメタゾン錠は1日目、8日目、15日目、22日目に内服します。

	1サイクル目							
	1日目	2～7日目	8日目	9～14日目	15日目	16～21日目	22日目	23～28日目
イサツキシマブ	○		○		○		○	
デキサメタゾン	○		○		○		○	
ポマリドミド	○							

	2サイクル目以降							
	1日目	2～7日目	8日目	9～14日目	15日目	16～21日目	22日目	23～28日目
イサツキシマブ	○				○			
デキサメタゾン	○		○		○		○	
ポマリドミド	○							



3. 特徴

●<u>イサツキシマブ</u>

作用:がん細胞表面の CD38を標的として結合し抗がん作用を示します。

注意事項:①点滴中に発熱、悪寒、悪心、頭痛、疼痛、かゆみ、発疹、咳、虚脱感、呼吸困難などが現れたときは早めにお知らせください(症状予防のため点滴速度を遅くしゆっくりと開始します)。

②副作用を軽くするために注射の30分前にジフェンヒドラミン錠、ファモチジン錠、アセトアミノフェン錠、デキサメタゾン錠を内服します。

●<u>ポマリドミド</u>

作用：体内の免疫のはたらきを調整し、骨髄腫細胞の増殖を抑える働きがあります。

注意事項：①ヒトで催奇形性を示すサリドマイドによく似たお薬です。

<u>お腹の中の赤ちゃんに障害を起こす可能性があります。そのため、「レブメイト」と呼ばれる適正管理手順が定められています。</u>

②薬の飲み残しがある場合は次回診察時に主治医へ伝えてください。

③患者さん以外の人が服用しないように厳重に管理してください。

●<u>デキサメタゾン（レナデックス）</u>

作用：生体内で作り出される副腎皮質ホルモン（ステロイド）を薬にしたものです。抗アレルギー作用、抗炎症作用、免疫抑制作用、抗腫瘍作用、悪心・嘔吐抑制作用などがあります。

注意事項：①医師の説明どおりに決められた量と期間を守って服用してください（自己判断での中止や減量等は行わないようにしてください）。

②食後になるべく多めの水で服用してください。

３．副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくても注意が必要な副作用（有害作用）について掲載しました。

（ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にしていただきたいと思います。）

注射時反応(Infusion reaction)

好発時期：①イサツキシマブの注射が開始になってから24時間以内に現れやすい症状です。

②点滴中に発熱、悪寒、悪心、頭痛、疼痛、かゆみ、発疹、咳、虚脱感、呼吸困難などが現れたときは早めにお知らせください（症状予防のため点滴速度を遅くしゆっくりと開始します）。

③異常を感じたらスタッフにお知らせください。

対策：予め注射の30分前にジフェンヒドラミン錠、ファモチジン錠、アセトアミノフェン錠、デキサメタゾン錠を内服します。帰宅後も起こる場合がありますので、異常を感じたらご連絡ください。

骨髄抑制

血液中の赤血球や血小板、白血球、好中球、リンパ球などが減少した状態のことを骨髄抑制といいます。赤血球が減ると貧血になり、血小板が減ると出血しやすくなります。また、白血球、好中球、リンパ球が減ると風邪や肺炎などの感染症にかかりやすくなります。

対策：**貧血**：自覚症状は息切れ、動悸、手足の冷え、倦怠感、立ちくらみなどが現れます。

激しい運動は控え、無理のない範囲でゆっくり動くようにしてください。

鉄分が少なくなっているケースでは食事から摂取できるよう心がけてください。

白血球減少：感染しやすい状態のため、**手洗い、うがい**、外出時の**マスク**着用を心がけましょう。

血小板減少：自覚症状は鼻血や歯茎の出血、青あざができやすいなどです。

ケガや転倒の危険性がある作業は避けましょう。
歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うと良いでしょう。

消化器症状

吐き気や便秘、下痢などの胃腸障害が現れることがあります。

好発時期：治療当日から数日間
症状の出方は個人差があります。

対策：症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。
食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。
便秘の時は水分を多めに摂取したり、食物繊維を取るように心がけてください。
便秘や下痢に対してお薬が処方になることがあります。症状にあわせて服用してください。

デキサメタゾンによる副作用

下記の症状が現れた場合はご相談ください。

1. のどの渇き、多尿（**高血糖に伴う症状**）
2. **心臓がドキドキする**
3. 肩こり、頭重感（**高血圧に伴う症状**）
4. 気分が高まったり沈んだりする、いらいらする、寝つきが悪い
5. 顔のほてり、ムーンフェイス（満月様顔貌）、むくみ
6. 感染症（免疫抑制作用によるもの）
7. 骨がもろくなる
8. 胃やみぞおちのもたれ・痛み
9. 内服後のだるさ
10. 食欲亢進（強い空腹感）

対策：症状が現れた場合はご相談ください。
安全に使用していただくためにも、高血圧、糖尿病、緑内障、白内障、骨粗しょう症、B 型・C 型肝炎、関節リウマチなどの既往のある方は必ず医師にお伝えください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまうこと（漏出）がまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることもあります。

好発時期：点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策：抗がん剤の種類によって対策が異なります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院
代表：TEL　028－626－5500